

九月二〇日

台風十七号接近。しかし東方海上に抜ける模様で関東には上陸しない。最近天氣が氣になるようになった。屋上菜園と二階三階の建築様式のせいだ。視覚的にも体感的にも内外のシキリが無いので、いつてみればアウト・ドアで暮しているようなものだ。生活が天氣で左右されている。菜園は荒れ放題で、ヘチマが急成長し、黄色い花を沢山咲かせている。週末には手入れしなくてはならないだろう。昨日から我家で使う椅子のスケッチを始めているのだが、うまくゆかない。寸法の決め方が建築とは少しちがうからだろう。建築のスケッチには最初スケールが入らなくても展開してゆくことができるが、家具ではスケールが最初から入っていないとわからない。

鈴木博之邸の新築祝に三つ椅子を作ったが、全部うまくいかなかった。自分の椅子ができそうだったら、今度はできるだろう。あんなひどい出来のモノをあげなくて本当に良かった。アレは古代エジプトの書記官像をモデルにした椅子だったが、今度はもうチョツと肩の力を抜いてやってみよう。

朝十時、飯島洋一君取材で来訪。短時間ではあったが初めて色々と話しをした。モダンリヴァイバルの連中から随分と攻撃されていたようだが、時のメインストリームを批判するというのは良い評論家としては不可欠な条件なのだから飯島君はやるべき事はやったのだ。陰ながら応援してゆくか。

九月二一日

鶴見俊輔長田弘の対話「旅の話」再読。馬上の孤独の章で、砂漠についての発言があり、共感したが、対話形式の限界もあり、砂漠は攻撃的であるというところで話しはすすまない。その先が知りたかった。鶴見氏の言葉の端々にイスラムの狂信的なものへの直観があつたように思う。アメリカでは大統領の議会演説があり、いよいよタリバン政権に向けて総攻撃が始められるようだ。イスラムの狂信的なものを過小評価しては危険なように思うが、大勢はもう大型の土砂崩れのようなもので、簡単には元に戻れないだろう。

午後東大松村研で会合。夕方鈴木博之とチョツと会う。その帰り、晩飯は難波和彦と市ヶ谷で。難波さんの奥さんは楽しみにしていた一ヶ月程のイタリア旅行をキャンセルしたそう。勿論八イジャックへの恐怖からだ。身近なところまでテロは影響しているのを感じた。私も十月初旬の沖縄行をキャンセルした方が良かった。イタリア行より、余程危険なのは確かだ。

仏教入門の本、渡された八冊まだ読み切れない。概説総論入門の類ばかりで、中にはひどくつまらない本も混じっていた。アト二冊ほどだから、やっつけてしまおう。

九月二二日

朝、スタジオ・ヴォイス取材で中里和人さん達来宅。写真をとる。屋上菜園の花や野菜を丹念にとっていたのが印象的だった。藤森照信の「天下無双の建築学入門」なる本の宣伝文を書くべが接近してきたので今夜は筑摩から送られてきた部厚いゲラを読まなくてはならない。丁度、仏教入門にもアキてイヤ気が指してい

たので良い頃合だ。先ずパラパラとめくってみると、これが面白いので徹夜で読んでしまいそう。藤森の本では最近の「タンポポの綿毛」が圧倒的に良かったが、ここんところ彼は絶好調である。老人力を使い果たした時には阿弥陀の手に糸引いて極楽往生するのだ、とまでホラを吹いていた。アイツは書評慣れしてるから、こんな事は朝飯前の仕事なんだろうが、私は大変である。

しかし、藤森はすっかり人民的作家になってきたな。安藤忠雄が国民的作家であるとすれば、マア藤森は国民という感じではなくって、敢えて古くさく人民的支持を得ているな。

読み始めたら、この本は大変な本だよ。建築の起原に関する新説がゴロゴロ書かれている。

九月二三日

終日家から一步も出ず。藤森の天下無双を通読。縄文建築のくだりが圧巻だ。タテ穴住居と樹上住居つまり高床住居を住み分けていたのじゃないかというのは藤森でなければ言えない。堀立て柱の起原はナマの樹だというのも本当かも知れないと思つてしまった。ナマの神木にサヤ堂かけたのが伊勢の始まりだなんて、よくまあそんな恐ろしい新説ブチ上げるなとも思うが、そうなのかと思わせるところが凄い。この本は宣伝しなくても売れるから俺の駄文は必要ないと思うが、やっぱり書かなきゃならんのだろうな。面白い本を面白いと書いても仕方ないのだから、ここは一つ工夫があるようだ。

しかしスタスタと足早に走る藤森、何処まで辿り着くつもりなのだろうか。そうだ、それを予測する駄文を書いてヤレ。